降誕節第二主日　１月第１週説教　2014.1.5

「主の公現」

マタイ２章 1-12 節

イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただした。彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。

『ユダの地、ベツレヘムよ、お前はユダの指導者たちの中で、決していちばん小さいものではない。お前から指導者が現れ、わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』」

そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。

説教

＜はじめに＞

公に現れると書いて、公現。耳慣れない日本語ですが原語ではエピファネイ

アといい「輝き出ること」という意味があります。きょうの主の公現の祭日は本来は１月６日に祝うのですが、日本では２日から８日の日曜日に移してお祝いすることにしています。ヨーロッパ暮らしが長かった方に聞いた話ですが、クリスマス飾りを年明けの６日まで飾るというのです。日本ではお正月飾りの用意をしますが、彼の暮らしていたところでは１月６日の公現日、エピファネイアまで飾るのだと教えてもらいました。でも、わたしはちょっと違和感があるのでクリスマス飾りは 26 日にはかたづけてもらっています。

＜その方の星＞

「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」マタイ 2:2

もし誰かが教会を訪ねて来て「生きている者と死んだ者を裁くために栄光のうちに再び来られる神の国の王キリストは、こちらの教会におられますか。わたしたちはその方の星を見たので、拝みに来たのです」と言ったら、牧師も信者も皆腰を抜かして驚くのではないでしょうか。びっくりして「いいえ、イエス様は天におられますから、今はご不在です」などと、間の抜けた返事をすることになるかも知れません。

東方の占星術の学者たちがみた星は紀元前 7 年の木星と土星の大接近であるという天文学の研究報告があります。だからマタイ福音書のお話は本当であったとか、いや、星に導かれてなんていうおとぎ話は非科学的であるという類（たぐい）の議論はきょうのテキストには少しも役に立たない、的はずれな寝言です。
学者たちが東方で「その方の星」を見たこと、それがテキストの核心です。

だれにでも見えるはずの天空の星の一つでありながら、しかしある人たちにはその同じ星が「イエス・キリストのみ顔に輝く神の栄光を悟る光」となる、ほんとうに人がキリストに出会うことは奇跡のようなものです。そしてキリストに出合った人々は東方の学者たちと共に「その星を見て喜びにあふれ」るのです。

＜不安、排除＞

これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。マタイ2:3

福音も、救いについても無知な人、いわばシロウトさんが、仲間に入れてくださいと言って教会に来れば大歓迎する。しかし、本物のそして熱心なキリスト信者がやって来て「皆さんはどんなふうに信じておられるのでか」「私はその方の星を見たので、その方を拝みにこの教会に来たのです」などと言ったら、単に不安を抱くだけではなくて、危険を感じて身構える。またそれ以上のこともあるかもしれない。昔も今もかわりがないことをマタイは福音書で証言します。ヘロデ王は不安からベツレヘムの子どもを殺せと命令したとマタイは記しています。エルサレムの人々も皆とあるので律法学者たちも司祭も同じようメシア殺しに賛成した、もちろんヘロデに反対する人もいたでしょうがその声は記録されませんでした。テイストは、最初にメシアの誕生を祝い、贈り物を奉げ、拝んだのは東方からの旅人、ユダヤ人ではない人、聖書のことばでいえば異邦人たちだと記します。

＜別の道＞

彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、

没薬を贈り物として献げた。ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。マタイ 2:9-12

「ヘロデのところに帰るな」本当にそのとおりです。そのような人たちはそっとしておく方がよいのです。当たり障りのない、美しくて愛に満ちた耳障りのよいお話を気に入っているのですから。
わたしたちせかんどチャーチは「ちょっとためになるいい話」や、「創作聖書人情ばなし」はしません。
「学者たちは別の道を通って自分たちの国へ帰って行った」きょうのテキストはこのように結んでいます。
別の道にみえるようでも今年も「福音を聞く」礼拝を続けていきます。本年もよろしくお願いします。